

会津の南山  
愛宕権現守護の  
巨大山城あり

鳴山城跡

しぎやまじょうあと

# 戦国時代から江戸時代 金銀と苧麻がもたらした 祇園祭が息づく山里 南会津町

## 祇園祭が息づく山里 南会津町

福島県南会津郡にあり、平成十八年三月二十日に田島・館岩・伊南・南郷が合併して誕生した人口一八、六二七人（二十二年十月）の町。山林が約九五パーセントを占め、東京三区と八王子市を合わせたよりも広い約八八六平米の面積があります。この町には、長沼氏、蒲生氏郷家臣の小倉作左衛門、直江兼統の弟大國実頼が城主だった山城「鳴山城」があります。城は、比高差約二〇〇メートルの愛宕山城（約七四九メートル）山頂にあり、北は大川（阿賀川）に挟まれたと城下町が開け、西に荒海川、東に水無川、南は急峻な山岳に続いています。城下町の田島では、子供歌舞伎を演じる祇園祭（国指定重要無形文化財）が毎年七月二十三日を中心に開催されています。

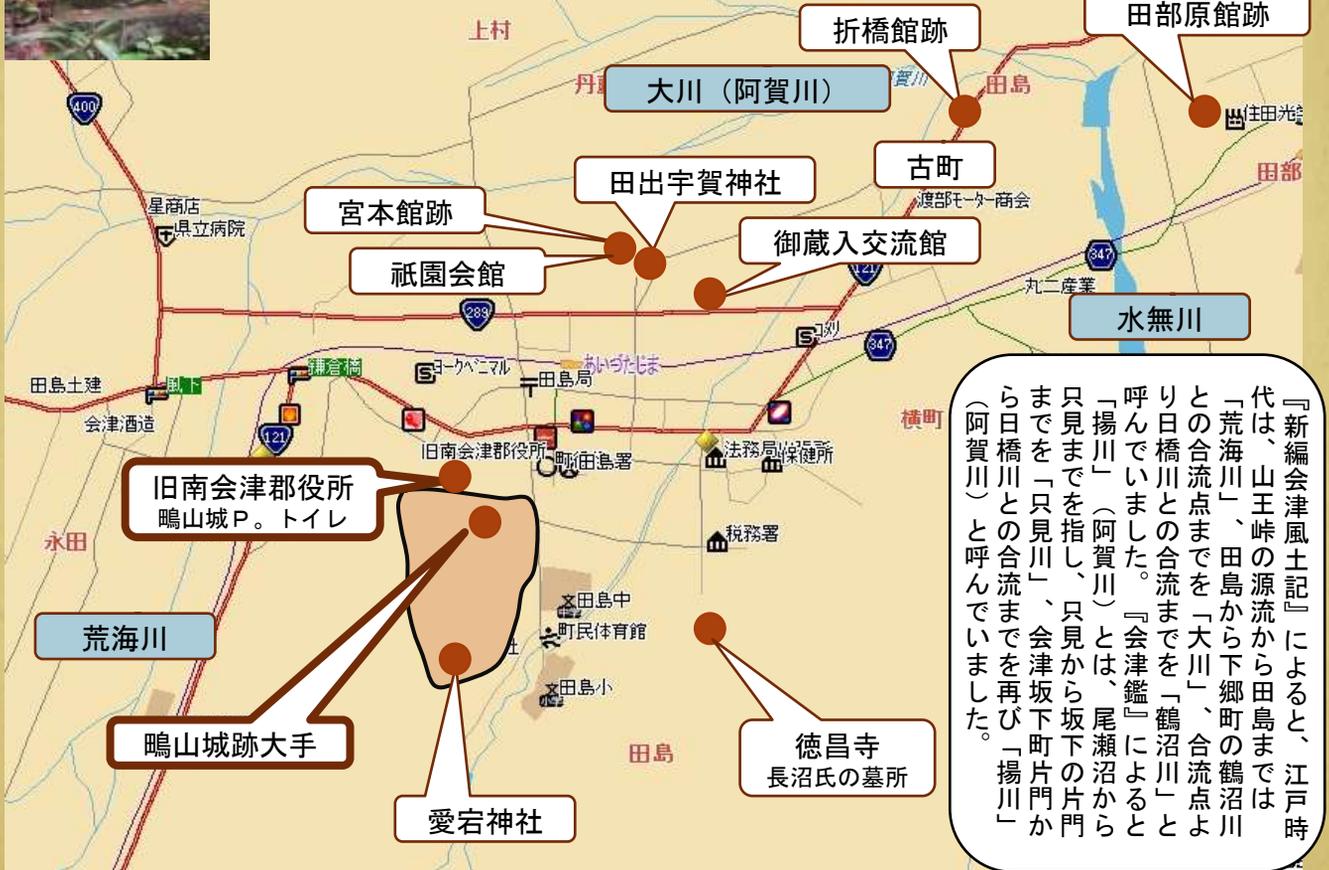
天正十八年（一五九〇）八月十三日には、豊臣秀吉が黒川（若松）での奥羽仕置きの帰りに南山（田島）に宿泊したようです。次の日は、山王峠から那須塩原温泉の元湯を通り、鬼怒川温泉北の「太閤下ろしの滝」に出ています。

### 大國実頼時代の南山



豊臣秀吉が天正十八年  
に通った「太閤道」

- 鳴山城跡
- 山王峠陣跡
- 鶴ヶ淵防塁跡
- 山王峠馬頭観音



『新編会津風土記』によると、江戸時代は、山王峠の源流から田島までは「荒海川」、田島から下郷町の鶴沼川との合流点までを「大川」、合流点より日橋川との合流までを「鶴沼川」と呼んでいました。『会津鑑』によると「揚川」（阿賀川）とは、尾瀬沼から只見までを指し、只見から坂下の片門までを「只見川」、会津坂下町片門から日橋川との合流までを再び「揚川」（阿賀川）と呼んでいました。

# 鳴山城跡

## 南会津町 長沼氏居城



長沼氏の墓所は、山寺の徳昌寺にあります。

鳴山城には、17世紀前半に描かれた「田島古絵図」(上)から重層の門と石垣があったことがわかります。「田島邑古城之図」(下)から、城と城下町を区切る堀が北側に存在したことがわかります。



栃木県真岡市の長沼城跡

南会津の南東部を支配した長沼氏は、鎌倉時代『長沼系図』によると、下野国(栃木県)小山城(別名は祇園城)を本拠とする小山光政の三男で、正応二年(一一六二)に生まれた長沼宗政を祖とされますが、確かではありません。栃木県真岡市長沼の宗光寺が長沼氏の館「長沼館跡」で、土塁と堀跡の一部が残されています。

田島地方が文献に登場するのは、『園城寺文書』正応元年(一二九九)、鎌倉幕府が「陸奥長江庄以下の地を長沼宗秀に安堵する」とあるのが最初です。正和元年(一二三二)の『長沼文書』「長沼宗秀が奈良原郷(下郷町檜原)の地頭職を長沼又五郎宗実に譲る」から、長沼氏は、下郷町檜原付近の長江庄へ鎌倉時代末には来ていたようです。武士が、北九州で元寇を防いだ弘安の役(一一八一年)後、論功行賞が停止されるのに伴い在地支配が強化される時期と合います。南北朝時代『伊達文書』によると、建武元年(一一三三)には醍醐天皇から所領安堵状が長沼宗実に出ています。観応二年(一一五二)『長沼文書』によると、長沼高秀が北朝方の結城朝常に尽力を依頼していることから長沼氏は北朝方に属していました。

鳴山城の名は、『異本塔寺長帳』文和二年(一一五三)「田島村鷺(しぎ)山の城を秋山城に改める」とありますが確かではありません。田島は、応享四年(一四三二)田島下塩江の鷲神社鰐口銘に「奥州長江庄田島郷」とあることから、室町時代前半には定着するようです。城下町の発祥は「古町」と呼ばれる市街地北東、国道一三二号線東側、北下原付近です。その西側には、宮本館跡、水無川越えた東には田部原館跡、北には折橋館跡があります。長沼氏時代初期には、館と町があったと推定されます。その後室町時代に、現在地へ移転したようです。

長沼氏が小山氏に属していた鎌倉時代、居城としていた長沼城跡。現在は天台宗宗光寺の境内で、北と西、東に土塁と堀跡の一部が残ります。南西約18キロには、同じ小山一族とされる河原田氏の本拠地があります。

### 鳴山城跡の範囲



鳴山の伝説となった湿地が区域(推定)長沼氏が葦名氏と戦った時に鳴が湿地に舞い降り、布を加え山に停まり、勝利に導いたという。

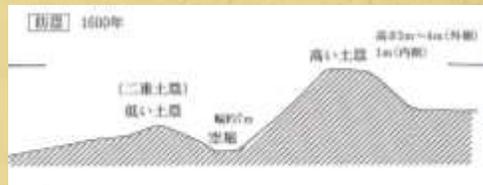
# 鳴山城跡

南会津町 長沼氏居城



「防塁」「二重土塁」

戦国時代に築かれた人馬の進行を防ぎ、弓と鉄砲で狙うために空堀と土塁によって築かれた防御遺構で、土塁は、前面に低い土塁が伴うもので、二重に造られています。慶長5年（1600）には、上杉景勝・直江兼続によって、徳川家康の上杉討伐に対抗して、福島県内外の峠に多数築かれています。母成峠防塁跡、馬入峠防塁跡、鶴ヶ淵防塁跡、草（皮）籠原防塁跡、九々布城跡、鳴山城跡、佐竹氏陣跡、向羽黒山城などにあります。



山頂にある「愛宕神社」。愛宕権現は、火伏の神であり、戦の神でもあります。南会津には、愛宕神社がたくさん祀られ、そこには山城が伴うことが多い。その中心的な山城・神社として「鳴山城」が拠点となりました。

鳴山（しぎやま）城跡は、長沼氏が十五世紀頃、愛宕山頂に築いた山城です。北を大手口とし、山麓に城下町があります。南側は、急な尾根で、東は崖となり、西は尾根で区切られています。北側だけに開け、平場や土塁、石垣が造られています。慶長三年（一五九八）直江兼続の弟、大実頼によって二重土塁で区画された総構えの城に大改修されています。その後、再蒲生の時代にも改修されています。天守閣に相当する重層の櫓は、主水曲輪にありました。生活の中心は上千畳・下千畳です。



大手口の石垣と堀跡



重層の櫓があったと推定される主水曲輪の石垣